

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600293		
法人名	有限会社ひなた		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	石狩市花川南2条6丁目118番地		
自己評価作成日	令和元年 10月 3日	評価結果市町村受理日	令和元年 12月 20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600293-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600293-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年 11月 11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中の一軒の家…それがグループホームひなたです。階段もあり、普通の家屋なので、狭い空間ですが、その分利用者さんは、本当に歩けなくなるまで、自分の足で歩き、階段の昇り降りをしています。自分らしく生き生きと終の棲家として、最後まで笑顔で暮らせるよう…それが私達の願いです。御家族や地域の方との交流を大切に、ボランティアさんのおつきあいも大変多く、すっかり馴染みの関係になり、日々の生活の中や行事の中で笑顔をたくさん頂いています。今年度は、町内の子供さん達とのふれあいも大変多く、出かける事が大変になってきた皆さんのもとに大勢の子供さん達が集まってきてくれました。開設当初からご希望される方は最期まで…と看取りもしており、御家族の方と共にお見送りをしてきました。ごく普通の日常の中で季節を感じるささやかな事を繰り返し笑顔で暮らせる…それが、ひなたです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は石狩市の南部、札幌市との境界に隣接した住宅街に立地し、国道や主要幹線道路、バス停にも近く交通の便にも恵まれている。住み慣れた地域で、自宅と同様に暮らせる家庭的な事業所として自宅を改造して開設し、その後共生型デイサービスを併設した。周りには慣れ親しんでいる地域住民が多く、町内の回覧板を通じて認知症の啓蒙や避難訓練、町内の敬老会やお祭り、「ふれあい広場」への参加など地域住民との交流を深めている。事業所行事の花火大会、炭焼きパーティ等に地域の子どもや住民が参加したり、ボランティアによるマジックショーやフラダンス、住民による手打ちそば、大学生や小学生の慰問など地域との交流を深めている。運営者は職員の予防接種や健康診断を実施したり休息もしっかりとすることで良質なケアの環境を作っている。ホームはアットホーム的な環境で利用者や家族の意向に沿うよう日々のケアを実践し、看取りの要望が有るときは積極的に看取りケアを行うなど家族との良好な関係を築いている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初、管理者と職員で話し合い作った理念に外部の方からの評価で加えた理念。このふたつの理念をもとに常に理念を共有し、実践につなげている。『ひなた通信』の1月発行分には毎年理念を掲載し皆で共有できるようにしている。	理念は居間に掲示し、パンフレットに明記して、月1回の会議で確認し、職員は共有して日々のケアに反映させている。また、毎年「ひなた通信」に掲載し利用者家族にも伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	様々な形でのボランティアとの交流、地域行事への参加、また事業所主催の行事への参加呼びかけなどを通して、地域の方と交流する事を楽しみにして生活している。	町内会に加入し、新年会等に出席し、敬老会や地域の「ふれあい祭り」などの行事に参加している。大学生のボランティアが来訪してフラダンスやマジックショーを披露したり、焼肉パーティ、花火大会では多くの子供や地域住民の参加がある。町内会の方が年4回そば打ちに来訪し、利用者や家族の楽しみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まちかど介護相談所・キャラバンメイトの活動を通して、また『グループホームひなた便り』で認知症の方の楽しく活動している様子を伝えることにより、地域の人々に認知症の理解や支援の方法を伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中では、実際の利用者の生活など伝えながら地域の方に理解してもらい、さらに災害時の事や地域の方との連携の必要性など話し合い、その内容については、全職員が報告書に目を通し必要に応じ話し合いをしている。	年6回開催し、石狩市高齢者支援課職員、町内会会長、民生委員、利用者家族などが出席して運営状況、行事予定、ヒヤリハット報告、避難訓練の講評等を行い意見や助言を得て運営に反映させている。議事録は全家族に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは日頃から連絡をとりあい、協力関係を築いている。	市の担当者とは事業所の空室状況や運営状況、地域行事(ふれあい広場)の打ち合わせ、生活保護の相談、指導や助言を受けている。市の高齢者支援課によるグループホーム連絡会にスタッフが参加して情報交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より身体拘束をしないケアに取り組んでおり、ごく普通の事としてケアしてきているが、更に昨年度より『身体拘束をしないケアの指針』をもとにミーティングの中で学習会をし、具体的な行為や不適切なケアなど皆で話し合いをもち身体拘束をしないケアを実践している。	入居時に身体拘束について説明し同意を得て身体拘束をしないケアを実践している。3か月に1回グループホーム連絡会の「身体拘束のないケア」の外部研修に参加し、日々のケアで行動抑制の言葉は使わないようにし、会議などで周知に努めている。年4回「身体拘束廃止適正化委員会」を開催し意見等はケアに反映させている。センサーにたよらない見守りに努め、外出には職員が同行している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法を学び、それをもとに学習会などで、研修を受けていない職員にも広げてきていたが、現在は、身体拘束をしないケアの学習会の中で虐待についても話し合いをもち、虐待の防止に努めている。			

グループホームひなた

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学んでいるわけではないが、管理者は必要に応じ、それを活用できるよう関係機関につなげたり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者がすべて行っており、十分理解し合えるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が話をしやすい雰囲気作りをしている。また家族がいつでも管理者に連絡を取れるような色々な連絡手段で繋がっており、意見や要望等は、運営に反映させている。	家族や利用者の要望意見は家族の来訪時や日々の関わりと会話などから把握するように努め、内容は個人記録に記載し毎朝の申し送りの時に発表しケアサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にも職員が話しやすい雰囲気作りをしているが、月1回のミーティングや年2回の個人面談では特に積極的に職員の意見や提案を聞き、反映させるようにしている。	管理者と職員はいつでも話が出来る環境を作っている。代表者との面談も随時行って、タイムシフトやサービス内容などについては職員の要望や意見、提案を取り入れながらサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は介護現場にいる事も多く、職員個々の勤務状況など把握するよう努め、個人面談などで、職員の話聞き、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	この数年職員の入れ替わりなどもあり、外部研修を受ける機会は少なくなっており、主に学習会の形の内部研修が多くなっていったが、外部研修を受ける機会を持てるよう、また働きながら講習を受けるための支援なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内にあるグループホームとは毎年、合同行事を行っており、今年で9回目を迎えた。年々両グループホームの職員間での合同打ち合わせやお互いのグループホームの見学、合同運営推進会議等で情報交換し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約以前に十分話を聞き、その情報を職員間で共有しており、それをもとに本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約以前に家族等の思いを十分聴き、利用開始後は密に連絡をとりながら家族との関係作りに努めている。家族がいつでも不安に思っていることなど伝え相談できるよう管理者が窓口になり対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来た時点から十分話を聞くように努め、その時には、当事業所だけでなく、他のサービスも含め、本人に必要なと思われる支援ができるよう心掛けている。またサービスを利用する段階で必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在は穏やかで笑顔で過ごせる事が大切と思いい、寄り添いながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築いている。相談や連絡などの窓口は管理者であり、職員は実際に家族との接点は少ないが、家族との関わりが長くなるにつれ、本人を共に支えていくという関係ができていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等と協力しながら馴染みの人や場所との関係がとぎれないよう支援に努めている。	介護度や高齢化に伴い室内にいることを望むようになり、個々の体力などを見ながら近隣の散歩や車椅子を利用し定例行事の「ふれあい広場」で作品発表、会館でのゲームに参加している。散髪は要望により2～3か月毎に訪問美容を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、穏やかに楽しく過ごせるよう座席などを配慮したり、トラブルを未然に防ぐよう職員が関わるなど利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係性を大切に、必要に応じ相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めており、それが困難な場合は、皆で情報共有しながら本人本位に検討している。	日々の会話、表情などから思いや意向の把握に努め、利用者から新たな要望が有るときは家族に確認している。意思疎通がうまくいかないときは家族から情報を得て職員で推察し、思いや要望に沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に得た情報を基に日々の暮らしの中で得た情報を記録したり、ミーティングの時に話したりしながら情報共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録や、申し送り、月に一度のミーティングの中で情報共有し、話し合いを持ち、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時のカンファレンスの中で話し合いをし、それを基にできるだけ現状に即したケアプランを立てており、毎月、そのプランについてや現在の状態などを評価として出し、全職員が必ず目を通すようにしている。	利用者や家族の意見、要望を反映させ、介護記録、看護師、主治医、職員の情報をもとに長期12ヶ月、短期は利用者の状況に合わせ介護計画を作成し、家族に説明して同意を得ている。利用者の状況に変化があれば直ちに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載はまだまだ不十分な部分もあるが、限られた時間の中で、記録をし、不十分な部分は日々の申し送りやミーティングなどで補い情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを大切に考えており、その時々ニーズにあわせて柔軟な支援やサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源の把握に努め、特にボランティアの受け入れを柔軟に行い、本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族等の希望を大切に、かかりつけ医を決めているが、現在は、それぞれの形で全員が往診をしてもらうかかりつけ医となっている。訪問看護との連携によりさらに適切な医療を受けられるような支援ができています。	利用者、家族が希望するかかりつけ医受診を支援している。毎月1回2つの医療関連機関の往診が有り家族の選択に沿うようにしている。歯科、眼科、耳鼻咽喉科とは連携があり受診支援をしている。毎日バイタルチェックを行い当事業所で感染症の予防接種を行っている。	

グループホームひなた

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は週2回の訪問による訪問看護ステーションと連携しているが、訪問日以外にも相談体制が整っており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合には、家族と共に医療機関と話し合い、できるだけ早期に退院できるよう、また退院後も適切な看護ができるよう、かかりつけ医や訪問看護と相談しながら対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所のできることを十分に説明し、その上で希望される場合はターミナル契約を結び、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	入所前に「重度化に関する指針」を説明し同意を得ている。利用者に体調の変化がある時は早い段階で本人、家族、看護師、主治医と話し合い要望に沿うようにしている。看取りの要望があればターミナル契約を行い主治医の指示に沿いケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にマニュアルがあり、学習しているが、実践力については不安に思っている職員も少なくない。話し合いの中では、急変時や事故発生時には管理者や訪問看護への連絡を徹底しており、その体制は、きちんとしてられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については毎月の避難誘導訓練や年に2回の消防との訓練により実践力を身につけている。地震・災害については机上での話し合いになるが、年に数回、確認しあっている。地域にも回覧や運営推進会議で発信している。	毎月1回自主避難訓練を実施し、年2回住民の参加と消防職員立会いの下、日中や夜間を想定した総合避難訓練を実施している。昨年の胆振東部地震の経験を念頭に置き、カセットガスコンロ、3日分の飲料水と食料品を備蓄している。	最近の自然災害の中でも特に風水害が多く甚大な被害が発生しており、事業所としても洪水での避難は市と相談したところ「垂直避難」との指導が得られており、災害の種類や規模に応じた避難場所を複数確保して、災害マニュアルを整備することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけているが、その状態を維持できるよう、ミーティング等でも話し合いを持ち、確認しあっている。	トイレ誘導や失敗した時など不適切な言葉を使わないようにしてさり気なく目立たないように配慮し、利用者の尊厳を守るケアに努めている。写真の掲載は家族の同意を得、個人情報や書類ファイルは事務室に保管し常に施錠している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できる事が少なくなってきたが、その中で本人がわかりやすい方法を工夫したりしながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、過ごせるよう心掛けている。本人が直接希望を表す事が少なくなってきたので、日々話し合い、職員間で情報共有し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を希望される方が多くなった為、現在は、ほとんど訪問美容を利用しているが、希望があれば、美容室へ行く支援もしている。その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

グループホームひなた

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをする事は、できなくなったが、食事は毎回一緒に食べている。行事食や手作りのおやつなど食べる事によって季節を感じたり楽しむことができるような支援をしている。	献立は職員が作成し、3日分の食材をスーパーで購入している。誕生日には利用者と一緒手作りケーキで祝い、ボランティア夫婦が手打ちそばを年数回提供し利用者に喜ばれている。季節行事には旬の食材を使い屋外では炭焼きパーティで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に必要な記載をしながら一人ひとりの状態や力、習慣に応じて無理なく栄養や水分が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせた口腔ケアをしている。また必要に応じ、家族等と相談しながら訪問歯科を利用し、その指導により口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどのの方が排泄の介助が必要になっているので、一人ひとりの力や排泄のパターンや習慣を活かしてトイレやP便器等で排泄できるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながら声をかけ、誘導を行っている。日中と夜間は利用者の状況に合わせて布パンツやリハビリパンツ、パッドを使用しポータブルトイレの利用など、状況に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、便秘の予防に取り組んでいるが、主治医と相談し服薬などで対応する事も重要になってきた。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の介助が難しくなってきた方もいるので、介助する職員の工夫なども必要だが、曜日や回数を決めることなく一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	午前中はレクが有るので入浴は午後からとなっている。利用者の状況により2人介助となることも多いが、シャワー浴や清拭など要望に沿うように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、居間で皆で過ごす事が多くなっているが、必要に応じ、自室で休んでもらうなど休息できるよう支援している。夜間は自室で安心して気持ちよく眠れるよう、状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、個人記録のファイルに付けてあり、また変更がある時には必ず、口頭や申し送りノートなどに記載し、全員が把握できるようになっている。服薬を支援し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・ゲーム・歌・行事・ボランティアの訪問など日々の中で楽しく過ごせる時間を作るようにしており、その中で生活歴や力を活かした役割などが発揮される事も多い。笑顔で過ごせるよう支援している。		



グループホームひなた

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員が1対1でないと歩けない状況で、外での歩行が難しくなってきた方も多くなってきたので、毎日の散歩などは減ってしまったが、行事や季節を楽しむために外に出る機会もつようにしている。家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	天気の良い日は体調に合わせて事業所近辺での日光浴や庭の花を鑑賞している。ドライブしながらお祭りや行事に参加したり、近くの会館で利用者の作品発表をして地域との交流もしている。子供神輿を出迎えたり、花火大会を行うなど利用者の気分を変えるような支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、家族や本人の希望で事業所でお金を預かっている。買い物へ行きたいなどの希望も無くなっており、本人がお金を使う機会は少なくなっているが、買い物の支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には、連絡をして電話をかけてもらうなどの支援をしている。手紙のやりとりなどの支援もしていたが、現在は手紙を書く方がいなくなった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々、普通の家であった事から共用空間は、十分な広さではないが、その狭い空間ゆえに安心して歩けるなどの利点もある。季節感のある飾り物で温かい家庭的な空間を作り、また光・音・温度などに配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所は一般住宅を改造したもので、昔からあるベチカが設置され家庭的な雰囲気を醸し出している。リビングはエアコンが設置されており、真南の窓からは日光が一日中差し込み清々しく開放的な室内となっている。壁には絵画や行事写真、利用者作品、貼り絵などが掲示され、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では座席の配慮をして、楽しく過ごせるよう工夫している。独りになりたい時はソファ一席に行ったり、自室で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、安全で居心地の良い空間になるよう配慮している。部屋の広さ、作りも違うが、それぞれに個性的な居室になっている。	テレビやイス、仏壇など使い慣れたものを持ち込み、利用者と家族の希望でベッドや整理ダンスが備え付けられている。入り口は好みのノレンなどで飾り清掃が行き届き清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手摺や滑り止めマットなどを設置し、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。居室は、一人ひとりが安全に過ごせるよう家具の配置なども工夫している。		